

\*\*\*\*\*

第 270 号

2013年11月13日

## 日本気象学会

### 関西支部 ニュース

- 関西支部第30期役員の補充・交代
- 2013年度 関西支部理事会報告
- 2013年度 関西支部総会および年会報告
- 関西支部 第35回 夏季大学報告
- 2013年度第1回例会（中国地区）、  
第2回例会（近畿地区）、第3回例会  
（四国地区）について
- メールアドレス登録のお願い
- 住所変更届のお願い
- （公社）日本気象学会入会案内

〒 540-0008

大阪市中央区大手前4丁目 1-76

大阪合同庁舎第4号館

大阪管区気象台内

日本気象学会関西支部

振替 00980-5-18318

TEL (06) 6949-5488

FAX (06) 6944-2121

ホームページ：

<http://www.msj-kansai.jp/>

E-mail：

[info@msj-kansai.jp](mailto:info@msj-kansai.jp)

(注：メールアドレスはスパム対策のため全角で記しています。メール送信の際は半角で入力してください。)

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

#### ○ 関西支部第30期役員の補充・交代

4月期の人事異動等に伴い日本気象学会関西支部長（代理：向川 均 常任理事）が常任理事、地区理事の推薦及び幹事の指名を行いました。また、常任理事会の互選により、新支部長に関田氏が選出されました。なお、10月期の人事異動に伴い、馬場近畿地区理事の所属が大阪管区気象台から神戸地方気象台に変更となっています。新役員は以下の通りです。

	(旧役員)	(新役員)	(新役員の所属)
支部長	藤村 弘志	関田 康雄	大阪管区気象台
常任理事	西嶋 信	杉本 悟史	大阪管区気象台
常任理事	竹川 元章	見定 吉信	大阪管区気象台
地区理事 (近畿)	北村 佳照	馬場 雅一	神戸地方気象台
地区理事 (四国)	土井 雅彦	城尾 泰彦	高松地方気象台
幹 事	家藤 敦章	関野 裕功	大阪管区気象台

## ○ 2013 年度関西支部理事会報告

6月29日11時から、「エル・おおさか」において、2013年度総会に先立ち理事会が開かれました。見定常任理事の司会で、午後からの総会を前に、各議題の報告及び審議が行われました。

まず、前項のとおり第30期役員が選出されたことが報告されました。次に2012年度の事業報告、収支決算報告、及び会計監査報告について、続いて2013年度事業計画案と予算案について各担当理事が説明しました。第35回夏季大学は「竜巻～理論・実験・観測～」のテーマで2013年8月31日（土）に京都市での開催とし、夏季大学により多くの方に参加してもらえるように、参加費を昨年度より500円値下げして1,000円とすることが承認されました。



理事会の様子

また、関西支部の会員数減少傾向に対する今後の取り組みについて議論し、今後とも検討していくことになりました。

## ○ 2013 年度 関西支部総会および年会報告

<2013年度気象学会関西支部総会> 2013.06.29 13:00～13:40

総会では、最初に総会成立審査を行い、関野幹事から、役員17名を含む個人会員の出席者25名、参加票により議決権の代理行使または意思表示を行なった個人会員が277名で、関西支部通常会員数493名の三分の一を超えており総会が成立する旨、報告がありました。続いて、第30期役員が紹介され、関田支部長が開会の挨拶を行ないました。

その後、京都大学の内藤氏を議長に選出して、議事が進められました。まず、2012年度の事業報告・収支決算報告・会計監査報告が行われました。続いて2013年度事業計画案・予算案が審議されました。関西支部理事会からは、今年度の支部活動強化基金の新規事業として、支部ニュースの電子化を行なうことなどが提案されました。議題については、原案どおりすべて賛成多数で承認されました。

議長解任の後、総会は閉会となりました。

<2013年度気象学会関西支部年会> 2013.06.29 14:00～16:00

年会には総会出席者の他、研究発表に関係した大学生など約31名の出席となりました。発表題数は5題と昨年に比べて2題減りましたが、講演時間を20分としてじっくり発表を聞くことができました。

座長は、前半3題を向川理事（京都大学）、後半2題を杉本理事（大阪管区气象台）が担当しました。紀淡海峡周辺における局地風に関する研究、局地的豪雨を捉えた緻密な観測データに関する研究、大雨をもたらした対流システムの形態と構造に関する研究、

大気季節内変動が海洋に与える影響に関する研究、集中豪雨時のGPS可降水量の変動特性に関する研究など、幅広い内容の発表に充実した年会となりました。

年会終了後は懇親会が行われ、関西支部の活動についての話などに花が咲きました。



年会の光景

#### ○ 関西支部 第35回 夏季大学報告

2013年8月31日(土)に、京都駅前のキャンパスプラザ京都の第3講義室(4F)で夏季大学を開催しました。今回のテーマは「竜巻～理論・実験・観測～」で、以下のとおり3題の講義が行われました。

- 1 「竜巻—その構造・発生機構の理解と予知の現状について」  
新野 宏氏 (東京大学大気海洋研究所)
- 2 「竜巻の発生環境を理解する室内実験」  
佐々 浩司氏 (高知大学教育研究部)
- 3 「竜巻の観測～メカニズム解明を目指して～」  
小司 禎教氏 (気象研究所気象衛星・観測システム研究部)

昨年・一昨年に引き続き、今年の夏季大学も週末の土曜日1日の開催としました。開催日に近畿地方への台風の接近が予想されたため、事前に受講生に開催中止もありうる旨連絡するなど、皆様にはご心配をおかけしましたが、何とか開催にこぎつけることができました。今回の受講者数は昨年よりも10名程度増加し94名となり、過去3年で最多の参加となりました。

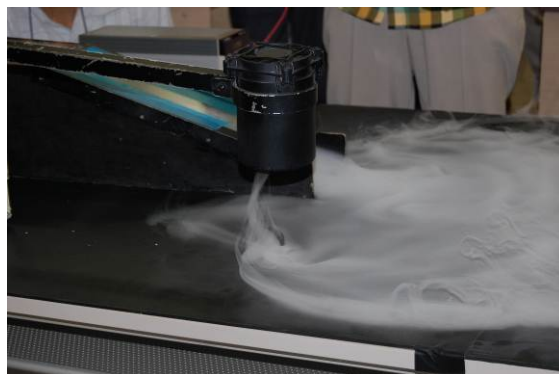


今回の夏季大学では、講義で使用する図表の理解を容易にするために、受講生に配布する夏季大学テキストをフルカラーで印刷すると共に、当日の講義で使用するプレゼンテーションファイルをテキスト化することも試みました。また、昨年同様、講義内容の理解を深めるために、予習用として夏季大学開催前に受講者にテキストの電子ファイルを公開しました。

各講師からは以下の内容の講義をして頂きました。まず、新野氏による「竜巻—その構造・発生機構の理解と予知の現状について」の講義では、竜巻という大気現象に関して、基礎知識から最新の学術的知見までを体系的に学習しました。はじめに被害写真等

を使って竜巻の特徴を解説いただき、これまでの観測結果や数値シミュレーション等により解明されてきた竜巻の発生機構に関することや、数値シミュレーションの各種指数を用いた竜巻の予知に関することなど、今後の課題も含めて、分かりやすく講義いただきました。新野氏から直接お話を伺える貴重な機会でもあり、講義後の休憩時間にも、受講生からの質問にたいへん熱心にお応えいただいていたのが、非常に印象的でした。

第2講の佐々氏による「竜巻の発生環境を理解する室内実験」の講義では、実験で竜巻を再現させるための工夫や、これまでの実験で得られた知見などを講義いただいた後、竜巻の発生環境や参加者全員が冷気外出流模擬装置の周りに集まり、ドライアイスで可視化された気流をファンで吸い上げることによりミニ竜巻を作る実験に奮闘しました。佐々氏には実験の十分な時間を用意いただき、また実験の各要所で解説をいただき、わかりやすい講義だったと受講生にたいへん好評でした。



そして、第3講の小司氏による「竜巻の観測～メカニズム解明を目指して～」の講義では、気象庁で行われている竜巻の監視・予測システムについての説明や、数値シミュレーションやドップラーレーダーによる竜巻の解明に向けた最新の技術動向を聞くことができました。小司氏は風邪で体調不良とのことでしたが、観測体制、特にレーダーについては現在運用中のものから今後有望と考えられるものまで幅広く説明するなど、詳細に講義をしていただきました。

受講者に対して行ったアンケート結果は次のとおりです（回収率 91%）。受講者は、男性が全体の9割弱と、昨年より若干増加しました。年代別で見ると、20代から60代までが13～20%とほぼ均等になり、昨年度の50代・60代が44%であった傾向から変化しました。年代に関係なく、幅広く関心を持っていただけるテーマであった結果と思われます。また、気象学会員の割合は、昨年度と同じ42%となりました。

全体の60%が京都府・大阪府・兵庫県の3府県からの参加でした（昨年は64%）。今年は、東京都、神奈川県、高知県、新潟県、鳥取県など遠方からの参加もあり、近畿地方以外からの参加が全受講生の14%を占めました。また職業別で見ると、学生が19%と最多で、会社員と公務員が共に17%、教員が14%と、年代と共に職業についても、幅広く参加いただけた結果となりました。

夏季大学を知ったきっかけは、昨年（38%）と同様に、予報士会などの電子メールが27%で最も多くなりました。他に、気象学会機関誌「天気」が24%、気象学会関西支部WebPageが17%、気象学会関西支部ニュースが15%と、それぞれの広報の成果が表れた結果となりました。今後も、複数の広報スタイルを維持していくことが重要と思われます。受講経験を見ると、今回初めて参加された方が全体の47%（昨年は39%）、2から4回目の参加者が34%（昨年は44%）で、昨年に比べ新規参加の割合が増加しています。

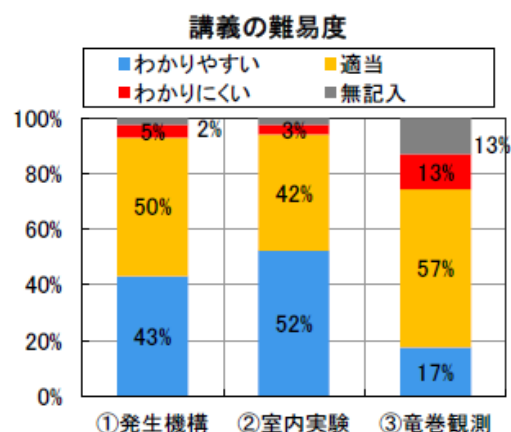
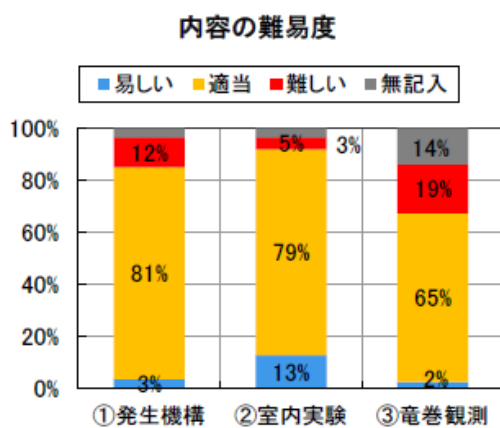
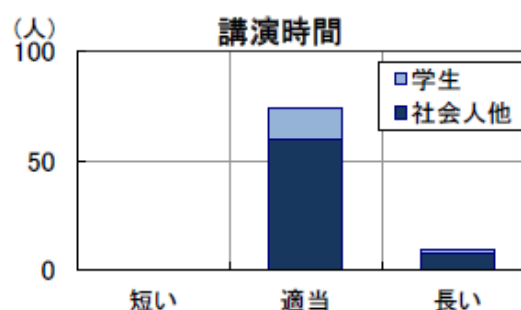
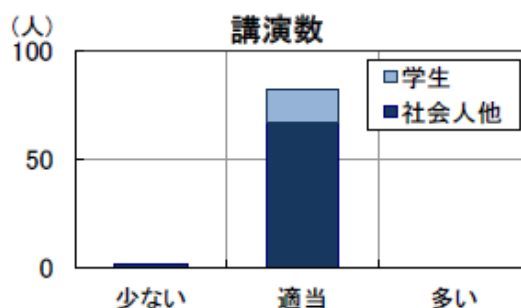
参加した感想を尋ねると、講義数が「適当」と回答した受講生が9割以上と昨年同様に非常に多い結果となりました。また、講義時間が「適当」と回答した受講生が8割以



上と昨年同様に多く、講義時間が「長い」と回答した割合は10%で、「短い」との回答は0でした。それぞれの講義の難易度と分かりやすさについては、3つの講義共に、約7割以上の受講者が「適当」として回答しており、また講義の難易度に関しても、「適当」と「わかりやすい」を合わせると全ての講義で7割を上回りました。自由形式で書いてもらった講義の感想についても好意的な内容が多く、大方満足のいく夏季大学を実施できたと考えております。

今後取り上げてほしいテーマについては、「気象災害」を希望した割合が17%、「天気予報」「気候変動」が共に14%で、昨年とほぼ同様の傾向を示しました。今年度は、「気象教育」(10%)や「生活と気象」(9%)など、これまでとは少し切り口を変化させたテーマへの要望が増えている点が特徴的でした。

今回のアンケート結果をもとに、関西支部では、多くの皆さんに満足していただける夏季大学を企画していきたいと思っております。来年度も多数の皆様のご参加をお待ちしております。



○ 2013 年度第 1 回例会 (中国地区)、第 2 回例会 (近畿地区)、第 3 回例会 (四国地区) について

- ・ 第 1 回例会 (中国地区)  
開催日：2013 年 11 月 9 日 (土)  
会 場：岡山大学教育学部講義棟 1F (5101 講義室)
- ・ 第 2 回例会 (近畿地区)  
開催日：2013 年 12 月 18 日 (水)

会 場：大阪合同庁舎第4号館 2階第2共用会議室

発表申込締切：11月15日（金）

・第3回例会（四国地区）

開催日：2013年12月20日（金）

会 場：高松第2地方合同庁舎 5階特別会議室

発表申込締切：11月20日（水）

詳細については、関西支部 HP のお知らせを参照してください。多数の参加をお願いします。

### ○ メールアドレス登録のお願い

関西支部ニュースは年3回（5月、10月、3月）発行予定で、2006年度から関西支部ホームページに掲載して閲覧していただいています。支部ニュース発行、総会・年会・例会などの開催通知等は支部全会員に E-mail で配信しています。まだ登録されていない会員の方は、会員氏名・番号、E-mail アドレスを関西支部事務局まで、ご登録いただくよう重ねてお願いします（関西支部の連絡先などは最初のページをご覧ください）。

### ○ 住所変更届のお願い

機関誌「天気」などの発送は学会本部事務局の会員名簿に基づいて行っています。学会事務局では会員の皆様の異動状況を早めに把握するように努めておりますが、把握漏れがあった場合には旧勤務地（旧住所）に発送され、旧勤務地（旧住所）の方に転送等の御迷惑をおかけすることになります。会員の皆様におかれましては、転勤等により勤務地（住所）が変わった場合、変更届を速やかに下記の学会本部事務局宛にご連絡いただきますようお願いいたします。

※学会事務局 〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内

TEL：03-3212-8341（内線2546） FAX：03-3216-4401

E-mail [met soc-j@aurora.ocn.ne.jp](mailto:met soc-j@aurora.ocn.ne.jp)

（注：メールアドレスはスパム対策のため全角で記しています。メール送信の際は半角で入力して下さい）

#### 住 所 等 の 変 更 届

- |              |      |
|--------------|------|
| ・会員番号： No.   | ・氏名： |
| ・旧勤務地（旧住所）：〒 |      |
| ・新勤務地（新住所）：〒 |      |

会費の納入など詳しいことは学会事務局にお尋ね下さい。

※学会事務局 〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内

TEL：03-3212-8341（内線2546） FAX：03-3216-4401

○ (社)日本気象学会入会案内

ホームページ: <http://www.metsoc.or.jp/Form/nyukai-j.html>

入会申込書(個人用)

公益社団法人 日本気象学会 FAX: 03-3216-4401

(二重線の枠内だけを記入しFax, 又は郵送願います。)

フリガナ		生年月日	(西暦) 年 月 日
姓 名		職業	
性 別	1. 男 2. 女		
刊行物などの送付先			
〒 -		(電話)	
現住所 (刊行物などの送付先と同じ場合は記入不要)			
〒 -		(電話)	
勤務先名/所属部署, 又は大学・学校名/在籍学部など (できるだけ詳細に) 及び所在地・電話番号			
〒 -		(電話)	
電子メール・アドレス			
会員区分 (希望する区分を○で囲んでください。学生/高年割引適用を希望する方はその文字を○で囲んでください。)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A会員 (年会費 6,900円, 「天気(毎月刊)」を無償配布)</li> <li>・ B会員 (年会費12,600円, 「天気」と「気象集誌(JMSJ:偶数月刊)」を無償配布)</li> <li>・ C会員 (年会費 6,600円, 「気象集誌(JMSJ)」を無償配布)</li> <li>・ (学生・高年割引適用) A会員 (年会費 4,200円, 「天気」を無償配布)</li> <li>・ (学生・高年割引適用) B会員 (年会費 8,100円, 「天気」と「気象集誌(JMSJ)」を無償配布)</li> <li>・ (学生・高年割引適用) C会員 (年会費 4,000円, 「気象集誌(JMSJ)」を無償配布)</li> </ul>			
注 ① 学生割引を希望される方は、在学証明書(コピー可)などを提示願います。			
② 高年割引を希望される方は、4月1日に65歳以上であることが確認できる免許証(コピー可)などを提示願います。			
③ 年の途中から入会される場合、会費は月割となります。 (参考: 月割の会費)			
刊行物の配布開始希望 年月	(A会員: 580円/月, 学生・高年割引適用の場合 350円/月)		
天気 年 月号から	(B会員: 580円/月+950円/2月, 学生・高年 350円/月+650円/2月)		
気象集誌(JMSJ) 年 月号から	(C会員: 1,100円/2月, 学生・高年割引適用の場合 670円/2月)		
その他刊行物の定期購読の希望有無			
気象研究ノート	1. 希望する ( 号から)		2. 希望しない
大会講演予稿集	1. 希望する ( 年 春/秋 から)		2. 希望しない
来年からの会費納入方法 (希望の番号を○で囲んでください。)			
1. ゆうちょ銀行口座からの引落	注 ① 1. 2. 3. の場合は、手続きに必要な申込書類をお送りします。 ご記入がない場合は 4. とみなし、請求時に払込取扱票をお送りします。 ② 1. 2. 3. の場合の引落手数料は学会が負担します。 ③ 4. の場合、振込手数料は申込者負担とさせていただきます。		
2. 銀行口座からの引落			
3. クレジットカード決済			
4. 郵便局からの振込(払込)			
通信欄(その他)			

以下、学会事務担当者記入欄:

月割会費	天気: 冊× 円= 円	気象集誌: 冊× 円= 円	合計: 円
会員番号	所属支部	受付日	20 年 月 日
		承認日	20 年 月 日

2013. 04. 25